



IEC 活動推進会議(IEC-APC)

IEC Activities Promotion Committee of Japan

APC ニュース第 169 号



IEC活動推進会議議長就任にあたって

住友電気工業株式会社 矢野 厚

5月29日に開催されました第27回IEC活動推進会議（IEC-APC）総会で、ご指名・ご承認を頂き、2017年度のIEC-APC議長に就任致しました 矢野 厚でございます。私自身、2008年度に次ぐ2度目の就任となります。この1年間、議長として皆さまと共にIEC標準化推進活動に参画させて頂けることを誠に光栄に思っております。

振り返れば、この9年間、日本を含む世界の環境は大きく変化致しました。リーマンショックによる世界不況の波により、産業界特に製造業は大きな痛手を受けました。2011年に発生した東日本大震災は東北地方を中心に大きな災害をもたらし、福島原発事故は原子力に頼っていた日本の電力供給・消費を大きく見直さざるを得ない状況をもたらしました。厳しい試練が続きましたが、日本人の英知と優秀な技術力により、様々な困難な状況を克服して参りました。地球温暖化防止のため世界100ヶ国以上が2015年に合意したパリ協定は、本年6月にトランプ米国大統領が離脱表明をしましたが、世界各国の意思と叡智を集めた前向きな取り組みが続いています。

私が長年携わって参りました情報通信分野においては、グローバルな技術開発競争が一層進展し、間断なく新しいビジネスが誕生しています。グローバルコミュニケーションが必然の時代になり、ネットワークでつながることが当たり前の社会においてもインフラを含めた通信サービスの標準化は引き続き重要な仕事です。IEC分野においても夢のあるスマートな社会の実現に向け、さらなる技術の深化と融合がより強力に進められています。

IECでは、ここ数年、システムアプローチに基づくシステムコミッティ活動が活性化しています。今年度は、電力供給における分散化、電力貯蔵、リニアブルエネルギー等に関する議論も活発となるでしょう。電力も「つながる」ことで、マネジメントが可能になります。このような大きなテーマに取り組むにあたっては、既存概念に捉われないこと、強い意志と夢をもち、グローバルな視野を踏まえて取り組むことが大切だと感じています。このような社会課題解決型システムの規格・標準化分野においては、課題先進国である日本の経験・知見と英知による貢献が世界から、大きく期待されています。

一方、国際標準化活動は、国際会議において論議・交渉を通し、合意形成を得ていく地道な活動です。高いコミュニケーション能力に加え、ネゴシエーションや根回しなど様々なスキルが要求されます。国際の場で伝えるべき意見を主張し、夢と志をもって相手を説得できる若い人材の育成は必須の課題です。IEC-APCでもセミナー等を通じ、人材育成・普及啓蒙に貢献して参ります。

これから1年間、会員の皆様のご支援を頂き、微力ながら、IEC-APCを通して日本の国際競争力向上の一助となるよう務めて参ります。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上